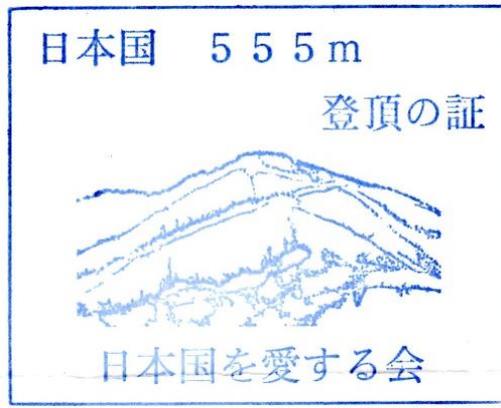


日本国登山の記



13時45分 到着。
ここに駐車場と休憩所がある。



山頂の休憩小屋にあったスタンプ。



山頂の展望台。佐渡や東北の山々が見えるということだったが。本日、視界なし。



13時48分 登山開始



14時59分 日本山山頂に到着。



山頂で記念に。
山名標と三角点と。



15時12分 下山開始。
16時05分 登山口到着。



14時18分
松ガ峰広場に到着。



14時43分 ^{じゃの}蛇逃峠通過。



14時45分 鷹待場通過。



左の文は、山頂の展望台に掲げられていた、「日本国」の名の由来です。

名峰「日本国」

「日本国」山名の起こりは、諸説ありて定かでない。

人皇第三十二代崇峻天皇は在位五年にして、時の権力者蘇我氏のために暗殺される。

その第一皇子、蜂子皇子はその時御年五歳である。聖徳太子は皇子の身の上に魔の手の延びるのを案じて、皇子を都より落しめた。

さすらいの身となった皇子は、越の国の最果てに来て大いに産業を興し、五十三歳で出羽国羽黒山で没した。

皇子は、晩年この高山に登りて、故郷飛鳥のある未申の方向を指差して「これより彼方は日本国(やまとのくに)と仰せられた。これが「日本国」の始まりとも言う。

皇子なきあと、大和朝廷は大化の改新を行い、蝦夷地平定の大業を進め、越の国の要害の地に柵を設けた。その淳足柵(ぬたりのさく)、磐舟柵(いしづねのさく)、そして幻の柵と言われる都岐沙羅柵(つぎさらのさく)は、日本国と一致するとの学説もある。

又、江戸後期、遠藤太郎次なる若者がこの山の頂で見事な鷹を捕ら徳川十代將軍家治に献上せしところ、將軍は「これは天下無双の鷹なるを持って、捕れた山を「日本国」と名付けよ」と賞したという言い伝えもある。

まさに名峰「日本国」は、千古の謎を秘めし山である。

山北町